| 出題分析 | | |
|---|---|---|
| **試験時間**　120 分 | **配点**　200 点 | **大問数**　3 題 |
| **分量**（昨年比較）〔減少　同程度　増加〕 | | **難易度変化**（昨年比較）〔易化　同程度　難化〕 |

**【概評】**

総合政策学部と同じく、本年度も問題の構成は大問Ⅰ・Ⅱが各 15 問、大問Ⅲが 30 問の 3 題であった。空所補充問題と内容(不)一致問題で構成されている点も昨年度と同様であった。英文の長さは今年度も大問Ⅰ・Ⅱが各 2 ページ、大問Ⅲが 3 ページにわたる長文であり、全体の読解量は昨年度と同程度と言える。長文の内容としては、大問Ⅲがやや抽象度が高いので読みにくい部分があるものの、全体としては標準的な難易度だった。空所補充問題では昨年度と比べて難しい語彙の選択肢が少なく、大体が標準レベルの語彙で構成されており、前後の文脈が理解できていれば解答できるものが大部分であった。

**設問別講評**

| 問題 | 出題分野・テーマ | 設問内容・解答のポイント | 難易度 |
|---|---|---|---|
| Ⅰ | 長文読解問題<br>（二酸化炭素を回収する技術の問題点） | 3 択の空所補充が 10 問、4 択の内容(不)一致が 5 問という構成。本文は二酸化炭素の回収に関する技術の問題点について論じた文章であった。比較的読みやすい文章で、空所補充問題も内容(不)一致問題も総じて標準的であった。 | 標準 |
| Ⅱ | 長文読解問題<br>（死者と対話する手段としてのAIの利用） | Ⅰと同様、3 択の空所補充が 10 問、4 択の内容(不)一致が 5 問という構成。本文は AI を利用して死者と対話することに関して論じた文章であった。文章自体は標準で、設問に関しても、一部の空所補充問題でややわかりにくいものがあったものの、内容一致問題に関しては紛らわしい選択肢も少なく、総じて標準的であった。 | 標準 |
| Ⅲ | 長文読解問題<br>（空間の捉え方における西洋と日本の違い） | 3 択の空所補充が 20 問、4 択の内容(不)一致が 10 問という構成。昨年度同様、大問Ⅰ・Ⅱと比べて英文は長い。都市と田舎、公有地と私有地の区別における西洋と日本の違いについて論じた文章であった。文章の内容がやや抽象的であるため、空所補充問題の一部で判断に迷うものの、内容(不)一致問題に関しては概ね標準的であり、全体の難易度としては例年並みだといえる。 | 標準 |

| 合格のための学習法 |
| --- |
| 今年度もⅠ・Ⅱは英文の分量が抑えられているが、Ⅲではかなり長い文章が出題されている。長めの文章を読み通す訓練を十分に積んでおく必要があるだろう。内容的には、科学論や社会論など本格的な評論が例年出題されている。日頃から専門的な内容の文章に接する機会をもち、語彙力や背景知識の増強に努めたい。また、内容(不)一致問題では参照すべきパラグラフが示されているものが多いので、英文を読む際には漫然と読み通すのではなく、パラグラフごとの趣旨を理解し、パラグラフ間の関係を意識しながら読むことを心がけたい。 |